

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

ワークショップ実施計画書

制作団体名	堺シティオペラ 一般社団法人
公演団体名	堺シティオペラ 一般社団法人

内容
ミニコンサート型ワークショップ オペラ公演を楽しく鑑賞してもらうために「人間の声」や「オペラ」についての知識を身につけてもらえるようにします。歌手4名とピアニスト1名によるミニコンサートを通して、様々なタイプの声とその特徴を実演を通して子どもたちに感じてもらいます。また、それに付随するレクチャーによって体験と知識の両方を得ることを目標としています。また、総合芸術である「オペラ」はどのように成り立っているのか？どの様に制作されていくのか？などの説明をパネルなどを用いて分かりやすく説明します。 10分程度の休憩を取り、学校様から提出して頂いた曲で発声講座を行います。まず始めに子どもたちに歌ってもらい、そこから4名の歌手から様々なアドバイスやエクササイズを行い、最後にもう一度子どもたちに歌ってもらいます。 最後には普段接する機会の少ないプロのオペラ歌手やピアニストに、今までのコンサートや発声講座、また音楽やオペラの世界についての質問をして頂くコーナーを用意します。硬い雰囲気の中での質問コーナーではなく、楽しく親しみやすい雰囲気の中での質問コーナーとなるようにしています。

タイムスケジュール（標準）
標準 90分ワークショップの場合 [15分] 挨拶・団体紹介・講師紹介 [35分] ミニコンサート + 「オペラってなに？」レクチャー [10分] 休憩 [15分] 発声講座 [10分] 質問コーナー [5分] 挨拶

派遣者数
歌手4名・ピアニスト1名・公演スタッフ1名 [合計6名]

学校における事前指導

15分程度の公演演目紹介とオペラとは何か？のビデオ（YoutubeリンクかDVD）を事前に送るので、ホームルームの時間などで児童・生徒さんと一緒に鑑賞をして頂きたいと思います。また、発声講座で取り組む曲（校歌や音楽の授業で歌っている曲）を堺シティオペラ事務局に送って頂きます。

令和3年度文化芸術による子供育成総合事業－巡回公演事業－

本公演実施計画書

制作団体名	堺シティオペラ 一般社団法人
公演団体名	堺シティオペラ 一般社団法人

演目
オペラ「人魚姫の物語」 ～ドヴォルザーク 『ルサルカ』 堺シティオペラ オリジナルバージョン～ 作曲:A.ドヴォルザーク（日本語訳詞:松井洋平） 演出：坂口茉里 指揮：宮崎優也 ピアノ：大村夢・青谷理子 ヴァイオリン：藤村知史

派遣者数
出演者・音楽スタッフ 11名 舞台スタッフ 7名
合計 18名

タイムスケジュール（標準）
[標準 90分の場合] [5分] 挨拶・演目紹介 [60分] 公演 [5分] 休憩 [10分] Q&A コーナー [5分] 発声講座 [5分] 挨拶 (午後公演の場合) 9時 到着 9時～12時 仕込み・ゲネプロ 13時～14時半 本公演 15時～16時 撤去 16時 退出

実施校への協力依頼人員
特に無し

演目解説

作曲家 ドヴォルザーク の歌劇 『ルサルカ』はリトルマーメイドでもお馴染みのアンデルセン童謡の「人魚姫の物語」のストーリーを基に作曲されました。本来はチェコ語で歌われ、上演時間も 2 時間 30 分を越す大きな作品です。また、日本でオペラと言うと西洋貴族の娯楽として認識されていて敷居が高く、一般の家庭では子ども達に出会う機会が与えられないのが現状です。また、『ルサルカ』と言作品はチェコ語での歌唱が受け入れられず、なかなか日本では上演される機会の少ない作品でした。しかし、「堺シティオペラオリジナルバージョン」はドラマと音楽が見せ所の場面を抜粋した形として子どもから高齢者までが楽しめる「ファミリー向けオペラ公演」の作品として新しく作成しました。カットしてしまったシーンなどは、登場人物である木の精 の 3 人がたわいもない会話をするスタイルで、どこで何が起きているのか?誰が何をしているのか?などをストレスなく観客に伝えていくスタイルを採用しています。この演目は正に堺シティオペラの学校公演用オペラの代表格のプログラムとなっています。本来はチェコ語で歌われる歌詞をオリジナル日本語歌詞で歌い、上演時間を休憩無しの 60 分ほどに縮小しています。歌と木の精 3 人の会話を交互に入れる事により子ども達の集中力を保ちポジティブな鑑賞環境を作り、プロのオペラ歌手による 歌唱と演技を紹介することが出来ます。「人魚姫」の物語は単純明快にキープをしつつ、その周りで起こるコミカルで可愛い歌唱と演技、人間の感情がぶつかり合う心理戦にドラマチックな音楽が捲し上げるシーンなど、オペラに触れる機会が無かった観客にもオペラの醍醐味が伝わる作品です。

児童生徒の公演への参加方法、公演に参加させるための工夫

専門的なトレーニングを積んでいない子ども達でも気兼ねなく“ダンス”を通してオペラ公演に 参加していただきます。第二幕の魔女が呪文を唱えるシーンに於いて、希望する生徒は魔女 の「家来（森の動物）」となり魔女のアリアの中でダンスを通して参加して頂けます。森の動物と言う比較的簡単に真似をすることが出来るキャラクターを演じるため、難しい演技を求められることなく、事前に配布するインストラクションビデオでダンスを覚えて頂き、当日の舞台に於いて発表していただく形になります。

児童生徒とのふれあい

公演終了後に出演者やスタッフと児童生徒が触れ合う時間を設け、Q&A コーナー、鑑賞したオペラ、職業としてのオペラ歌手・音楽家についての質問を受け付けます。また、演奏時以外も各々が積極的に「おはよう!」「こんにちは!」など、声かけを欠かさず行っております。

